

第3回 幼保小合同研修会だより

日 時 : 令和8年7月8日(水) 15時～16時50分

場 所 : 郡山市総合福祉センター 5階 集会室

講 演: 就学前後の子どもの理解と保育者・教師自身の心のケア

～安心して関わるための視点と支え合い～

講 師: 福島医科大学 看護学部

佐藤 利憲 氏



<講師紹介>

精神科看護師として臨床経験を基盤に、子どものメンタルヘルス、発達障がいのある子ども・家族のサポート、子ども・家族のグリーフサポート、ペアレントトレーニング、災害後の心のケアをテーマに医療教育の現場で実践と人材育成に取り組んでおられます。

就学前後の子どもの理解をするためには、子どもの成長・特徴を理解するとともに、支援者が自分の感情・気持ちに丁寧に向き合うことが大切であると学びました。また、子どもの状態によってできることとできないことがあるため、安心して力を発揮できる「ベストコンディションな環境」を整えることの重要性について理解を深めました。

不適応行動を減らすためには、適応行動に着目し、ターゲットとなる行動を意識的、計画的にほめていくことで望ましい行動が増えていくことを学び、日々の支援に生かしたいと感じました。

さらに、支援者のセルフケアも重要であり、疲れてからでなく、心とからだを守るための予防として取り組むことが大切であると学びました。自分自身の弱点や限界を知り、相談できる仲間を持つことの大切さも印象に残りました。

今回の研修は、子どもへの支援だけでなく、支援者の在り方やセルフケアについて見つめ直す機会となり、大変有意義な研修でした。



アンケートより

*日頃の自分自身の保育を振り返ることができました。子どものできないことにばかりに目を向けるのではなく、ターゲット行動を決め、褒めることで適応行動を増やしていきたいと思いました。子どもに合わせた適応、不適応行動の判断を見極めながら関わっていきたいと思います。

*対応技術の「ほめる」について、意識的に、計画的に行うことの重要性を学ばせて頂きました。また、支援者のセルフケアでは、自分の限界を知るなど、6つをアンパンマンに例えて、わかりやすかったです。

*セルフケアの研修は初めてでしたが、自分の体と心の健康も大切にしていきたいと思いました。